



IIRC ニュースレター：2020年10月号



IIRC ニュースレターご購入者へ、 グローバルカンファレンス ご参加の優待割引特典

IIRC ニュースレターのご購読の皆様は、2020年11月30日から12月2日に開催予定の「[IIRC グローバルカンファレンス](#)」に、通常チケット料金の20%割引でご参加いただけます。

同カンファレンスでは、開催期間中の3日間、「統合報告フレームワーク」改訂に向けた協議事項をまとめた、ここでしか閲覧できないレビュー、有機的な報告システムの構築に向けたさまざまな計画立案など、企業報告環境の未来に関する最新の知見を提供します。

[「報告の未来」](#)

IIRC の CEO、Charles Tilley が、この新たなポッドキャストで Business Learning Institute に語りかけます。

各種スキルを開発し、皆様の組織が統合報告を実施する能力を構築できるよう、[「統合報告トレーニング」](#)をご利用ください。

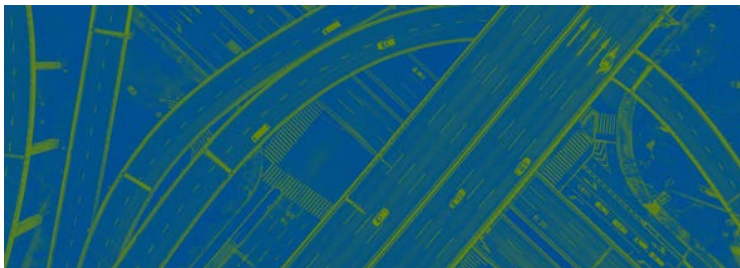
また、危機管理や気候リスク管理、統合実現に向けたテクノロジーの活用などのトピックを網羅する実践的なワークショップやディスカッションを開催します。

参加者の皆様がセッションの合間の休憩時間を利用して他の参加者とのネットワークを構築できる最先端テクノロジーを駆使したバーチャル会議機能で、今回は史上最も「グローバル」なカンファレンスとなります。

2020 カンファレンスのイベント詳細およびカンファレンスの主要な講演者の詳細については、[カンファレンス専用 web サイト](#)にアクセスしてください。

[カンファレンス参加のご予約](#)の際は、チケット価格が 20%割引となるコード「FKW53995VTZ」をご利用ください。

統合報告に関するよくある質問への回答は、[IIRC の Web サイト](#)にアクセスしてください。



有機的かつ堅牢な 企業報告システムに最接近中

過去 6 か月間、さまざまな市場ニーズに対応できる斬新で統一感のある有機的な報告システムの完成に向けて確かな進捗がありました。

IIRC が最も重視しているのは、統合思考および統合報告の諸原則が、最も堅牢で効果的な報告業務を体現できる包括的かつ国際的なシステムの中に組み込まれます。

当評議会では、多方面の主要プレーヤーと緊密に協力しながら、この実現を目指していますが、あらゆる方面で協力関係とコラボレーションが急発展している今こそ、私たちの願いを実現できる好機到来と感じています。

今号では、この分野における最新の取組みや統合思考、およびそれらの中で IIRC が果たしている役割などの一端を概説します。

包括的な企業報告に向け諸機関と協力する意思を表明

IIRC はこれまで、CDP、CDSB（気候変動開示基準委員会）、GRI（グローバル・レポーティング・イニシアチブ）、SASB（サステナビリティ会計基準委員会）などの諸機関と協働しつつ、統合報告を通じて結合された財務会計およびサステナビリティ開示の両方を含む、包括的かつ世界的に認知された企業報告システムの構築に向けた[共有ビジョン](#)の提供に努めてきました。これは、より包括的な企業報告に必要とされるさまざまな要素の共有ビジョンであり、協力してこの目標への邁進を誓う共同意思表明でもあります。

来月（11月）、これらの機関が共同で、各種フレームワークと諸基準を組み合わせて使用する方法、および諸基準と各種フレームワークのコンテンツをTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）が設定したさまざまな要素と統合することにより提案されたアーキテクチャを気候問題に適用する方法の具体例を示すレポートを公開する予定です。

IFRS 評議員会のコンサルテーション

「国際財務報告基準 (IFRS) 財団」の評議員会は、世界のサステナビリティ基準に対する需要を評価し、その需要が強い場合には、そうした基準の開発に IFRS 財団が貢献できるかどうか、またどの程度貢献が可能かを評価するコンサルテーションペーパーを発行しました。

IIRC は、資本市場に関連するサステナビリティの開示について国際的に認知された組織的な協定を提示し、堅牢なガバナンスや、厳格なデュー・プロセス、および独立性の高い基準設定を確立していく上で、IFRS 評議員会が重要な役割を果たすと確信しています。

IFRS 評議員会と IIRC は、統一性・一貫性・比較可能性を高めるような手法で企業報告に関する各種フレームワーク、基準、要件を調和させ、明瞭性を高めようと、多年にわたって緊密に協力し合い、2013 年にはそうした趣旨を確認する覚書に署名しました。

欧州委員会

本年初頭、欧州委員会は、欧州財務報告諮問グループ (EFRAG) に、EU の非財務報告基準の準備作業を行う権限を与えました。

欧州委員会は多年にわたり、価値創造チェーンの全般で効果を発揮できる報告を推進する上で力強いリーダーシップを発揮してきましたが、こうした姿勢は、同委員会が持続可能な財務ソリューションの必要性を真剣に受け止めていることを示すもうひとつの証左です。

EFRAG は、既存のフレームワークおよび基準の設定機関と緊密に連携しつつ、統合思考を発展させる意向を示しています。IIRC はこれを歓迎し、以下に 3 つの重要な推奨事項を概説します。

1. 意思決定およびリソース配分に際し、持続可能な開発をめぐるさまざまな問題が主流の要因として認められるよう、情報の結合性を推進する必要性
2. 「国際統合報告フレームワーク」など既存の報告フレームワークおよび報告基準の広範な自主的採用により、企業の報告業務の負担を軽減
3. 時間の経過とともに価値創造に影響をおよぼすあらゆる情報相互の関連性を明らかにし、財務情報と非財務情報の間に誤解を招く恐れのある区分の必要性を軽減

「サステナブルファイナンス」に関する IOSCO タスクフォース

証券監督者国際機構 (IOSCO) の「サステナブルファイナンス (持続可能な金融)」に関するタスクフォースのチェアマン、Erik Thedéen 氏が、信頼性の高い開示を推進し、「グリーンウォッシング」の欺瞞を廃し、主要リスクを管理する上で IOSCO が果たすことのできる重要な役割について [スピーチを行いました](#)。同氏は、「ESG 開示の将来的なフレームワークがどのようなものとなるにせよ、その公益性を保護する」ために、IIRC が CDP、CDSB、GRI、SASB などの諸機関とともに担っている効果的な報告システムの構築作業に、IOSCO も協力していきたい、と述べました。さらに同氏は、この作業が IFRS 評議員会の作業

と合流していくことへの期待を表明し、「これらのさまざまなステップを組み合わせることで、より統一性の高い包括的な企業報告システムを提供できる構造の基盤が形成されていくはずで」と語っています。

この意見表明は、同氏に宛てた[公開書簡](#)への回答として寄せられたもので、IIRC、CDP、CDSB、GRI、SASB の共同意思声明に基づき、協力を促進することで報告システムの変更を加速させていく上で IOSCO が果たすことのできる主導的かつ重要な役割を示しています。

国際会計士連盟 (IFAC)

IFAC は会計士の世界を代表する声として、IFRS 財団のもとで今後、国際会計基準審議会 (IASB) と並び立つ存在になっていく新たなサステナビリティ基準審議会の創設を求めています。そのような審議会を新設する可能性は、IFRS 評議員会が提出したコンサルテーションにおける協議提案事項の一部となっています。

IFAC はこの新たな審議会について、CDP、CDSB、GRI、IIRC、SASB の専門的知見および各種開示要件との協働作業や相互作用を活かしながら、「ビルディングブロック (部分構造合成) 方式」を採用して進める必要があると考えています。さらに、「財務および非財務情報の結合は、概念の枠組みを介して行われるべきです。統合報告原則と TCFD の作業が出発点となるでしょう」と伝えました。

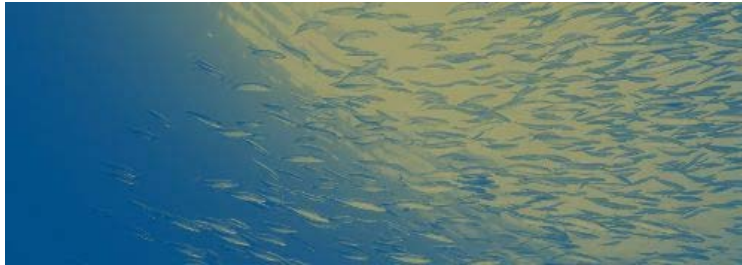
世界経済フォーラムとビッグ4

世界経済フォーラムは、デロイト、EY、KPMG、PwC と協力して、‘Towards Common Metrics and Consistent Reporting of Sustainable Value Creation’ (‘持続可能な価値創造のための共通指標と一貫した報告を目指して’) というタイトルのレポートを発表しました。

IIRC は、同レポートを、効果的かつ長期持続可能な価値創造をサポートできる指標の特定に向けた重要な思考開発を率先する試みとして歓迎しています。

著者たちは、同レポートの内容が IIRC とその他の機関が発表した共同声明と「基本的に相互補完的」である点を明言しています。

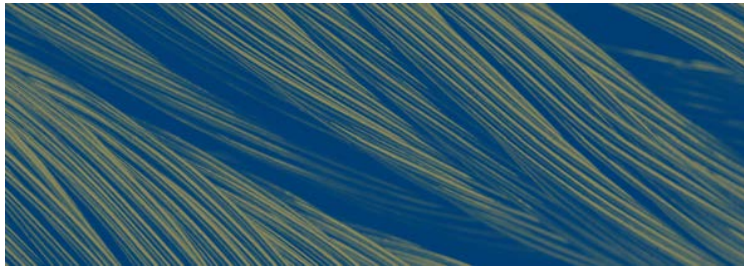
同レポートは、「国際統合報告フレームワーク」と一致した、ガバナンス、事業戦略、およびパフォーマンスマネジメントに統合可能なさまざまな指標の重要性を打ち出しています。



危機的な時代における「報告」

南アフリカの統合報告委員会が、新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) の拡大局面で、組織が特定の財務情報やガバナンスに関する考慮事項などの追加情報を企業報告に含めるよう要請される場合、統合報告を利用して効果的な報告を行う方法を[解説する文書](#)を発行しました。組織はこうした未曾有の危機の時代に、統合報告を通じて組織の考えや意思決定をステークホルダーと共有することが可能となります。

同冊子は、「国際統合報告フレームワーク」を、バランスのとれた完成度の高い報告を反映する透明性向上のツールとして使用する方法や、こうした問題を報告のどのセクションで扱うべきか、また、感染症拡大がステークホルダーとの関係に及ぼす影響を反映する方法について概説しています。



統合思考の実践： ABN AMRO にスポットを当てる

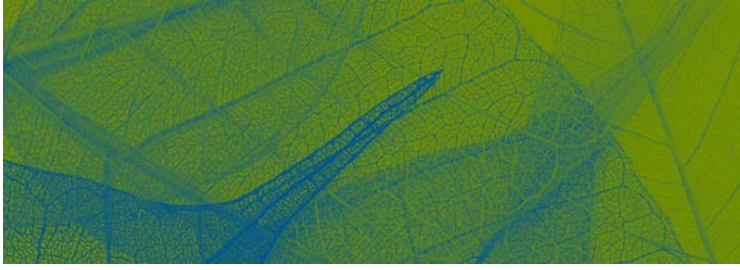
オランダの大手銀行のひとつ、ABN AMRO は、2014 年から統合思考に取り組むことで、ビジネスモデルと事業戦略を形成してきました。

同行では、銀行に影響を及ぼし、銀行の影響を受ける、製造・人的・知的資本などの、財務的およびプレ / 非財務的なドライバーに焦点をあてた価値創造戦略の重要性を特定しました。

同行は、組織内に「企業統合思考コミュニティ」を設置することで、より協調的な組織文化と透明性の高い報告を生み出しました。これにより、顧客とステークホルダーへの意識がさらに研ぎ澄まされ、最終的には「次世代に向けてもっと素晴らしい銀行を」という同行のパーパスの達成に直結しました。

このアプローチは Covid-19 の影響に深く関係している。同様に、2 年ごとのプロセス再評価によって、短・中・長期的な価値創造の見直しが可能になりました。

ABN AMRO の[ケーススタディ](#)全文を読み、目的達成までの同行の動機、取組み、成功例を参考にしてください。



気候変動会計に 目覚めた投資家たち

責任投資原則 (PRI) や国連環境計画・金融イニシアチブ (UNEP-FI) など、世界中の投資家の声を代表する機関が、気候変動に関するパリ協定と一致する前提条件を使用して企業が財務報告書を作成するよう求める投資家の要望をまとめた公開書簡をすでに発表しています。

世界で 103 兆米ドルを超える資産を運用管理するこうした投資家グループは、企業報告に気候関連リスクを適正に反映するよう求め、気候変動に対して弾力性のある開発に沿った財務フローの実現を目指すパリ協定の取組みを支援するために結集しています。

気候変動など、主だった持続可能な開発要因にかかわる報告に関して、情報の統合と結合性を求める IIRC の呼びかけと一致点の多いこの書簡は、[国連 PRI ウェブサイトで閲覧](#)できます。



Contact: juliet.markham@theiirc.org

Copyright © 2020 International Integrated Reporting Council, All rights reserved.
[unsubscribe from this list](#) [update subscription preferences](#)
[IIRC Privacy Policy](#)